

平成24年度 女性に対する暴力防止フォーラム

と き：平成24年12月2日(日) 14:00～

ところ：社会福祉総合センター 大会議室（榎原市大久保町）

「メール相談から見た若者の現状ーデートDVとその対応ー」

講師：上村 茂仁さん（ウィメンズクリニック・かみむら院長）

皆さん、こんにちは。今日はここ奈良でお話させていただいて、ほぼ全国で毎週日曜日に講演させていただいております。それ以外に木曜日に学校で講演しております。産婦人科の医者ですから、メインは診療で、木曜日は休診にしてその日だけ学校に行っています。

私は産婦人科なので深刻なDVもあります。うちのクリニックは女性の逃げ込み場所のようです。DVの被害者や性的虐待を受けた女の子が逃げ込んできたり、学校に行けない子どもたちが来る、そんなクリニックです。ですから、子どもさんたちが多いです。全患者さんの3分の1が高校生、中学生です。女子大学生は半分ぐらいで、残る人達が30歳以上です。

デートDVの被害者は、それを乗り越えたとしても、人間の記憶とは不思議なもので、トラウマのようにその記憶はずっと続きます。ですから、被害者にならないように小・中学生のうちをしっかりそのことを知っておいて予防するということが本当の予防だろうというように思って、小学校6年生からDVと付き合い方についての講演をしています。

女の子から相談を受けたら、まず、「頑張ったね。」「生きていてくれてありがとうね。」そして微笑むんです。方法はとにかく、彼女が生きようと頑張ってくれていることを褒めてあげる。いきなりここで「あなた、何考えてるの?」と目くじらをたてる人がたまにいますが、「よく来てくれたね。」「よく頑張ったね。」と皆さん言える方になって下さい。そこから先については、これからの人生を語る上で、過去のことは私たちは責めてはいけません。もしかしたら私たち大人の責任で彼女はこうなっているかもしれない。彼女に謝ることはあっても、文句を言ったりはできません。とても難しいですね。

学生からのメール相談がいっぱいあります。性感染症、妊娠など。

デートDVのメールがこんなに来ることは普通はないのです。実際はデートDVだと自分たちはほとんど思っていない。特に学生は自分たちがデートDVの被害者だと思いません。当然、加害者は加害者だと思いません。でも、彼氏がいる子をうちのスタッフが色々と話を聞いているうちに、10分の1の確率ぐらいでDVを見つけ出してきてしまうのです。そういうものなのだと知っておいてください。私のいうDVは、一般の方が思っている、もう命が危ないというふうなDVと違い、その前のDVだということです。精神的にトラウマになる手前のDV。男性の加害者が多いのですが、女性の加害

者もいます。

さて、DVが非常に色々な問題を起こすというのは、親のけんかが子どもを巻き込んでいくということに関係あります。今、岡山では、色々な流れがあります。妊娠中ならリスクが高いお母さんたちを見つけ出して、早めに子育てのなかで予防しようということをやっています。ところがそれでも間に合わないという結論に達して、中学生や高校生の教育に私が行った時に、「将来子どもができた時には、こういうふう育ててあげてね」という話を必ずいれます。そこでしか、絶ちようがないんですね。お父さんお母さんのDVの影響を受けているかもしれない、でもあなたは違うふう生きていこうね、自分は子どもをこういうふう育てようねということ子どもたちに教えていく、そしてその子が大人になる、そしてその子が親となって子どもを育てる、そしてそのお父さんお母さんを見ていた子どもが親になる世代まで待たなければならない。とても長い話ですが、今しないと50年後も何もおきないです。

性教育の時に友達に相談するということがあります。「自分に関係なくても友達が相談する相手は君なんだよ」と、「将来、助けてと友達が言ってきた時に助けてあげられる知識を持っていないと友達を助けられないのだよ」と話し、友達のためという大義名分があると一生懸命勉強します。家でもそれが上手くいきます。きっかけをつくれれば家のなかでも性教育になります。大人は怒ってはいけません。人間関係や悩みのなかで大人は自分の知識や経験のなかから未来が分かるような気がするので、怒ろうとしますが、怒った時点でこの子は大人に話す気がなくなります。大人は信じられないということになるのです。

DVについて、中学生、高校生の中なかで一番強い暴力が何かと言ったら「約束」です。「約束したろお前。」、「毎日メールするって約束したろ。」、「休みの日はできるだけ俺と遊ぶって約束したろ。」と。「あの約束はどうなるの？お前は約束を破るの？嘘つきなの？」とその約束ってことばが強いです。大人に約束は破っちゃいけないと習ってますよね。私たちの大人の感覚と違って、色々なDVのなかの暴力というのは子どもたちは少し違うんです。そこを私たちは理解してからデートDVについて語ろうということです。

DVをする彼といつもつきあってしまうという女子学生もいます。優しい人をすぐふっってしまう、なぜかDVをする彼とだけ長く付き合ってしまう。この子は僕の講演も聞いて「怖い時の彼が本当の彼なんだよ、優しい時の彼は、付き合い始めた時は誰でも皆優しいんだから、私の彼氏優しいからって言ったって意味ないんだよ、皆優しいのだから優しいってことは付き合う理由にならないんだよ、「怖くない」ということが大事なんだよ」と話しても、今の彼もDVと知っているし、今後も性格が変わらないということも分かっている。怖い時の彼が本当のいつもの彼なのもちゃんと知っています。でも、彼と付き合いたいと言います。怖いな怖いなと思うけれど時々ふっと、すごく優しくなる。その落差に逆にもものすごい優しさを感じてしまう現実があるようです。

今の中学生たちはデートDVを知っています。束縛がデートDVになるということも知っているのです。友達にも「それはDVだよ」と人には言えるのですが、自分は被害を受けるのです。大人もそうかもしれませんが。

病院が全て見つけだすようにしなければいけない。病院で見つかります。内科でも耳鼻科でも外科でもどこでも何か女の子が不調を訴えて、もしくは何かの症状を訴えて何回か来るってことは全然かけ離れているかもしれないけどDVの可能性があるのでということを考えておかないと見つけ損ねます。

デートDVとはどういうことでしょう。

精神的・肉体的に苦痛を被害者が感じるような行動を一方的にとられていても付き合いが成り立っている、つまり例えば彼女が被害者だとしたら精神的・肉体的な苦痛を伴うというか、要するに彼が怖いとか、彼といると辛いとかそういうふうに思っているにも関わらず、そのままずっと付き合いを続けて、彼女のほうは彼に対して辛い・怖いというのを言えないまま付き合いを続けているというような状態がもちろんDVです。あまりDVの被害者になり過ぎると、自分がもう辛いとか苦しいとかすら感じなくなってきます。その時に、これは学生ですが、友達が「あなた、どう考えたって、それ、DVを受けてるよ。」って言ってあげたくなるような、そこまで理不尽な行動を加害者にとられている、それを見つけるのは友達になります。客観的に理不尽な行動を被害者がとられているにも関わらず、やはり付き合いが続くと。じゃあ、普通だったらそんな理不尽な行動をとられたら被害者はそれに対して断るはずなのに、それが断れない。

結局、友達だったらどう接したらいいのか。被害者の彼女の目的は「別れたくない、でもどうしたらいいですか。」ですので、難しいですよ。これは「別れたくない」というのが本人の気持ちですから、一番難しい。つまり、離れないです。離れません。だから、それだけ心が繋がっているから、デートDVは難しいです。また、一つ間違ると殴る蹴るにすぐにいってしまいます。デートDVで、「彼氏・彼女の関係なんだから、さっさと別れてしまえばいいじゃない。」と言えないということだけ理解しておいてください。その気持ちを理解しようという話なのです。

学校で僕がお願いするのは友達にお願いするのです。友達しか気付けないし、支えてあげられない。最初は大人に対して不信感を持ってから、すぐに大人に繋ごうともなかなか繋ぎにくいのがあったらまず友達に相談してもらおう。だからデートDV教育の大事なことは、全員に教育するということです。その理由は、加害者・被害者が自分で気付くこともそうなのですが、友達がその知識をしっかりと持ち、DVを発見し、そして傷つけないように被害者に寄り添ってもらおう。

DVの存在に気付いていてもなかなか当人には言えないということがある。被害者が女性だったら彼女の悩みは「別れたい」ではなくて「どうしたら別れないですむか、元のいい関係に戻るか」なので「別れたい」という目的とは違います。彼女に色々話してもらおう為には今の環境を否定しない、彼のいいところなども聞いてあげる、彼女があなたを安心

できる居場所だと感じたら、彼女はやっと心を開いてあなたを信じて話してくれる。居場所になるまで、ただただ、そばにいて話を聞いてあげて否定しないでいてあげる。そばにいて居心地のいい場所をつくってあげて、決して彼女の生き方を否定しない、彼女が辛さ・怖さを語ってくれたら、しっかり話し合っただけで必ず一緒に方向を決めていく。でも、彼女が肉体的に怪我するような暴力的な被害を受けている場合は、これは何としてでも大人に繋ごう。「彼女の夢は何ですか？目標はなんですか？とか、彼女の思いは何ですか？とか希望は何ですか？とか、彼女の友達に対して希望することは何ですか？」とか、こういうことを加害者の彼に言うことができれば、それが最高なのですが、これは難しいなと思っています。

親の関係、子どもの関係というのが一つあって、子どもさんって何をもって信頼を感じるかと言うと、家庭のなかで遊んでもらった時間が信頼になります。家庭のなかといっても、お父さん・お母さんが忙しかったら、そんなに時間がないのですが、それでも結構です。1年間に1時間でも結構です。お父さん・お母さんが相手にしてくれる1時間があったらその時間は遊んでもらえたら、そのうちの何%かは信頼になります。充実した関係です。難しいことはしなくていい、ちっちゃい子どもとしっかり遊ぶ、それが信頼を得ることなのです。「親が最近めちゃくちゃ厳しくて親同士が喧嘩ばかりするから悲しくて塾の帰りに自殺しようと車から飛び降りました。ひどい怪我はしませんでした。」といったメールも来ます。

親ができないのだったら、周りの大人たちが守ってあげる環境をつくらなければ、とても難しいのだと思います。ですので、チームを組んで子どもたちを守る環境、そしてその地域が横に繋がって、色々な人達が横に繋がって、子どもたちを守る環境をつくらなければとても難しい状況であると思います。子どもの居場所をつくってあげる、そういう現実が必要だと思います。私に質問や相談がある人はツイッターやフェイスブックでいつでも友達になってください。時間がきたので話を終わりたいと思います。ありがとうございました。